

(別添 3)

【高萩市】
校務DX計画

【現状】

高萩市では、令和5年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきている。しかし、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、研修方法の多様化、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

高萩市では、「Microsoft365」等のクラウドツールを活用した学習や、連絡アプリによる便りの配信等が少しずつ進んでいるが、児童生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとりの活用については、電話対応や書類の印刷・配布などが教職員の負担となっている。

学校内の会議においては、使用する書類の印刷・配布や修正時の手直しによる再印刷など教職員の負担が大きい状況となっている。

研修の実施方法については、ハイブリット研修は少なく、対面型・オンライン研修が多い状況となっている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、業者とFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、完全な廃止ができない状況である。

教職員が学校及び教育委員会へ提出する事務手続きは一部クラウド化されておらず、書類での提出となっている。

(3) 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

新入学児童生徒の名簿情報を電子ファイルで学校に送付しているが、保護者の連絡先等の情報については含まれていないため、保護者が記入した紙媒体の情報を、教職員が手入力している状況である。

【取組方針】

現状と課題から高萩市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

（１）クラウドツールの整備・活用、研修方法の多様化

- ① 校務支援アプリ等を積極的に活用し、保護者からの欠席・遅刻等による電話対応の削減を目指す。それにより、教職員の日常業務の負担軽減を図る。
- ② 校務支援アプリ等を活用し、学校からの便りなどの印刷・配布の廃止を目指す。それにより、教職員の通常業務の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。
- ③ 会議や、研修で用いる資料等はWeb会議ツールなどの資料共有機能を利用することを推奨し、印刷等の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。
- ④ 研修方法については、内容に応じて対面型、オンライン型、ハイブリット型（対面型とオンライン型の双方を組み合わせた研修）を検討する。また、オンデマンド視聴についても推進していく。
- ⑤ クラウドを活用することで、データ移行などの業務負担を軽減する。また、USBディスクを廃止することで、紛失による情報漏洩リスクや情報の散在による漏洩リスクの軽減を図る。
- ⑥ 生成AIの校務での有効活用に向け、国のガイドラインに基づいた活用を推進し、県域外の好事例等の情報収集や講師を招いた研修を教職員向けに実施する。

（２）FAXでのやり取り・押印の見直し

- ① FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できるよう継続的に働きかけていく。
- ② 押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを検討し、押印をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図る。

（３）校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

この状況を解決するため、プライバシーポリシーを明らかに示しながら、クラウドサービスを活用した児童生徒の個人情報の収集を進めていきたい。また、名簿情報の入力作業が重複して行われることが無いように、学校で作成している帳票を整理し、校務支援システム内で一元化を図る。